

ひなたぼっこ保育園

保育園の園評価

令和 8年 2月

< 保育士のための自己評価 >

保育は、子どもの最善の利益を優先して行われなければならない、とだれもが願っています。子どもらしい学びの姿に気付き、その意味を認め、丁寧に応じる過程が「子どもたちにとって最善」ではないでしょうか。最善の利益は常に子ども側にあります。子どもの生活をしっかり見て、気付きや改善を積み重ねることが「保育の質」を高めることになります。

新保育所保育指針には「保育士等は保育の計画や保育の記録を通して自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通してその専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない」と記されています。一人一人の育ちを捉える視点として、ねらいや達成状況の評価には子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程などにも十分配慮すること、育ちをしっかり捉えることができる専門性を必要としています。また自らの保育では、指導計画に書かれたねらいと内容、環境構成、援助が適切であったかなど「保育の過程」全体を振り返るとしています。振り返りを行う方法のひとつとして、評価項目を利用した振り返りを誰もが取り組める一定の基準にまとめました。

個人が主体的に自己評価を行う評価項目によるチェックリストの作成。自己評価ガイドラインの視点から項目を整理しました。子どもの人権への配慮、発達の援助、保護者の気持ちに寄り添い共に育ち合う関係づくり、保育者として自己研鑽に努める、等の姿勢を明確にしました。また、記述により振り返りができるようにしました。

- ★保育者に求められている専門性の全体像が見え、簡易に振り返りができる。
 - ★迷いをみつめ、自分の強み、弱みを振り返ることができる。
 - ★職場全体で共有できる。
- 等のメリットがあります。

「未来に生きる心豊かな子どもたち」を育くむ「保育力」を磨いていきましょう。

< チェックシートの書き方について >

- ① チェックシートにそって自己評価をします。
 - ※評価のめやす
 - ◎…十分理解できている(十分できている)
 - …理解している(できている)
 - ▲…ふつう
 - ×…努力が必要

2025年度 「保育内容等の保育士自己評価」のためのチェックリスト

ひなたぼっこ保育園

自己評価チェック内容		園評価		
基本項目		よくでき ている	ほぼでき ている	努力が必 要
1	保育の基本（保育指針・教育要領）を理解している		○	
2	園の理念や保育目標を理解している	○		
3	園の全体的な計画（保育課程・教育課程）を理解している		○	
4	園の理念や方針に基づき、保育の改善に努めている		○	
5	定期的に自己評価をして、保育の改善に努めている		○	
6	保育の計画や実践に向けて、創意工夫に努めている		○	
7	自分の保育の良さと課題を認識している		○	
8	すぐにも取り組まないといけない課題の改善に努力した 課題の内容（ ）		○	
9	保育雑誌や専門誌などを讀んだりして、保育の情報を集めている		○	
10	園の会議・ミーティングなどで子どもの利益を一番に考えて発言している		○	
11	業務上知りえた個人情報などの秘密を守っている	○		
子どもとの関り 「生命の保持・心の安定」				
1	ひとりひとりの発達を理解して接している		○	
2	ひとりひとりの生理的欲求が満たされているように配慮している	○		
3	登園時にやさしく声をかけるなど、状況に応じて対応している	○		
4	わかりやすい言葉で穏やかに話しかけている		○	
5	子どもが何を求めているのか、常に配慮して接している		○	
6	子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解する よう努めている	○		
7	制止やせかす言葉を不必要に使わず、ひとりひとりに合わせた対 応をしている		○	
8	「あとで」などと待たせず、なるべくその場で対応している		○	
「健康・安全」				
1	食事や排泄などの生活に必要な活動に自ら取り組むように配慮し ている	○		
2	食事やおやつを楽しめる雰囲気作りをしている	○		
3	子どもが育てたものを食事やおやつに出し一緒に食たべるなど、 食育に心がけている		○	
4	偏食や食べ残しを直すために過度に叱らないように配慮している		○	
5	トイレの後や食事の手洗いなど、清潔にする習慣が身につくよう 働きかけている	○		
6	体を動かすことを楽しむように働きかけている	○		
7	危険を意識して行動するよう、安全について指導している	○		

「人とのかかわり」				
1	友達とのかかわりで、友達の良さや大切さに気づくようにしている	○		
2	子ども同士が互いの気持ちや発信を受け入れられるように配慮している		○	
3	順番を守るなどのルールが身につくように配慮している		○	
4	活動を通して、共用の道具や遊具を大事にできるようにしている		○	
5	人と心が通じ合う喜びを伝えるように接している		○	
6	異年齢の子どもと関わることを大切にしている		○	
7	外国の人や文化の違う人がいる事を知る機会をつくっている（絵本なども可）			○
8	地域の人や高齢者と関わる機会を大切にしている（散歩などでも）		○	
9	家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちを育てている		○	
「表現活動」				
1	美しいものに感動したり、イメージを広げたりする機会をつくっている		○	
2	感じたことや考えたことを自由に表現する機会をつくっている		○	
3	子どもが自由に歌ったり、踊ったりすることを楽しめるようにしている		○	
4	様々な素材や用具と接し、自分で工夫して遊べるようにしている		○	
5	子どもの作品を大事に扱い、工夫して飾るなどしている		○	
「言葉」				
1	心のこもった挨拶をしている		○	
2	正しく、丁寧な言葉かけをしている		○	
3	「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉を相手の気持ちを大切にして指導している	○		
4	わからないことを子どもが聞けるなど、安心して話ができる雰囲気を作っている	○		
5	子どもが人前で話をするときに、相手に伝えられるような援助をしている		○	
6	絵本や物語などは、子どもの発達や興味・関心に即したものを提供している	○		
7	ごっこ遊びなど楽しい雰囲気の中で、言葉のやりとりができるように子ども同士の仲立ちをおこなっている		○	
保育環境				
「環境づくり～心地よい生活の場」				
1	ひとりひとりが安心して過ごせる環境づくりを心がけている		○	
2	自然とのふれあいを大切にして心が豊かになるよう配慮している		○	
3	四季に応じて、保育室の環境を整えている		○	
4	保育室の温度や湿度、換気の配慮している	○		
5	適切な声の大きさに接している		○	
6	子どもが不安になったり、話しかけてきたりしたときに応じられるようにしている	○		
7	トイレや手洗い場を清潔に保っている		○	
8	遊具・おもちゃ、砂場などの点検や消毒を定期的に行っている		○	
9	必要な場所に転倒防止対策をしている（確認等意識している）		○	
10	力干閉め等、不審者対策としての意識をし、実行している		○	

「環境づくり～成長を促す」				
1	発達に合ったおもちゃや遊具を用意している	○		
2	子どもの導線を考えて、遊具や用具を配慮している		○	
3	子どもが動植物にふれあう機会を大事にしている		○	
4	ひとりひとりの興味に合わせて、好きな遊びができるようにしている	○		
5	園外活動の際、近隣住民、施設の方々との交流（挨拶等）を心がけている	○		
6	保護者との意見交換の機会を設けている（保育園として）	○		
7	緊急時は電話などで迅速な連絡を行うことができる	○		
「支援」				
1	子どもが健康的な生活リズムを身につけられるようにしている	○		
2	子どもの育ちを理解し、共有することを大切にしている		○	
3	保護者の悩みや不安を話せるように心を開いて対応している（職員）	○		
4	保護者懇談等共通理解を得るための機会を設けている（保育園として）	○		
「マナー」				
1	すべての保護者に対して、親しみを込めた挨拶や会話を心がけている	○		
2	丁寧な言葉や敬語を使うように心がけている	○		
3	子どもの体調不良などの連絡時の伝達方法に配慮している（職員）	○		
4	苦情や要望には、謙虚に話を聞いて対応している（職員）	○		
ほかの保育者とのかかわり 「良好な関係と協働性」				
1	園長や主任、主幹保育士、同僚を尊重し、良好な関係を築いていくよう努めている	○		
2	園長や主任、主幹保育士、同僚の言葉を素直な気持ちで受け入れている	○		
3	報告や連絡、相談をするように心がけている	○		
4	自分が休んだ日の出来事や連絡・注意事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間（パート含む）に努めていますか		○	
5	園が目指す目標に向けて互いに協力している	○		
「乳児保育について」				
1	乳児期にふさわしい安全で衛生的な環境を心がけている	○		
2	授乳は子どもの欲しがる時にゆったりと行っている	○		
3	ひとりひとりの育ちに合わせ、家庭と連携しながら離乳食を進めている	○		
4	ひとりひとりの生活リズムに合わせて睡眠がとれる場所や時間を設けている	○		
5	寝返りのできない子は仰向けに寝かせるなど、乳幼児突然死症候群（SIDS）に配慮した保育を行っている	○		
6	オムツ交換は声をかけ、スキンシップを大切にしながら行っている	○		
7	たて抱きや腹ばいなど様々な姿勢が取れるように配慮している	○		
8	しぐさや声を介し、要求を察知してタイミングよくオムツ交換を行うようにしている	○		
9	喃語には優しくこたえるようにしている	○		
10	やり取りやふれあいあそびを大切にしている	○		

「特別な配慮や支援を必要とする子どもの保育」				
1	障害のある子どもの特性に配慮した個別の計画を作成し、保育を行っている			
2	障害のある子どもとない子どもが互いに認め合い、共に成長できるように配慮している			
3	障害のある子どもを持つ保護者の気持ちを受け止め、話をする機会などを設け、支援している			
4	医療機関や地域の専門機関から、必要に応じて助言を受けている			
5	障害児保育の研修などに進んで参加している			
「保健活動・安全管理」				
1	ひとりひとりの体調をしっかりと把握し食事の量や内容を変えるなどの配慮をしていますか（確認していますか）	○		
2	棚やピアノなどの転倒防止、その他事故がおこらないように、保育室内外の安全な環境作りの努力をしていますか	○		
3	園庭にガラスの破片など危険なものがないか確認したり、安全な環境作りの努力をしていますか	○		
4	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練に参加し、災害非常時に自分が何をしなければならないか理解していますか	○		
「不適切保育について」				
1	子どもひとりひとりの人格を尊重した保育をおこなっているか	○		
2	物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけをしていないか	○		
3	罰を与えたり、乱暴的なかかわりをしていないか	○		
4	ひとりひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわりかたをしていないか	○		
5	差別的なかかわりをしていないか	○		
「昨年度の自己評価から、改善したことや意識して今年度行った保育等を記入」				
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の情報を積極的に聞く”知る”を努力した。知ったうえで、その子に合わせた対応を心がけた ・全体を見るように意識して、噛みつき、叩き、ひっかきを防ぐ努力をした(2名) ・忙しい時間帯に状況を見て動く、声をかける等務めた ・その子の状態や支援等共有しながら保育に努めた ・楽しく、期待がもてるような言葉がけや安心してあたたかい気持ちになれるような言葉がけを意識した ・一人一人とゆったり関り、満たしてあげようと努めた ・心に余裕をもって、子どもたち、職員と接するようになった ・個々の成長や日々の姿に合わせた計画を立て、配慮のポイント等を共有してきた ・他職員からの意見やアイデアを取り入れ保育に繋げている ・制止する言葉等を使わないように意識している 				
保育園として				
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の仕方が正職員とパート職員との動きの違いもあり、来年度は別々の評価表を準備していく ・意識してほしい所等を来年度の研修項目として行っていく ・人事考課表の作成時期に合わせて評価が出来るように準備する ・自分の評価を振り返ることができるように返却し、定期的に保育の振り返りができるようにしていく 				